



自宅でできるオンライン授業(数学を例として)

— 学習の質の保証と手軽さを追求して —

武 沢 護

早稲田大学

高等学院教諭

教職大学院客員教授



学校現場の現状 ー多忙な教員たちー

- ・新学習指導要領に向けて(2020小学校, 2021中学校, 2020高等学校)
各段階では「主体的・対話的で深い学び」の推進
特に小学校の英語, プログラミング教育の実施
- ・GIGAスクール構想(2019年～)を受けて
- ・児童, 生徒の多様化
- ・教員の年齢構成



オンライン授業がやってきた

キーワード: 発達段階を対象にした初等中等教育において

いかに手軽にできるか

教員の多忙化

いかにして授業の質を保つか

双方向性など
子どもたちの不安

対面授業 → オンライン授業(連続性)
(オンデマンドを基本に)

○多様な授業への対応の必要(数学を例に)

数式の表現、図形の表示、生徒の数学の課題提出の方法など
(高校ではその他に、体育、家庭科、芸術、理科実験などの授業がある)

○個人的に事情

学校で作業できない。



オンライン授業がやってきた

○自宅で授業発信可能

<http://www.f.waseda.jp/takezawa/lab/online/index.html>

○動画はyoutube(限定公開)や早稲田大学のコンテンツサーバーへ

<https://wcms.waseda.jp/em/5eb646edd153e>

授業展開(50分)

- ・オンラインリアルタイム:授業の指示 (5分)
- ・動画視聴(10分程度×2) (20分)
- ・演習課題に取り組む (20分)
- ・リフレクション提出 (5分)
- ・課題の提出(当日内に提出)

課題:これからの教育にどのようにつなげるか(オンラインのメリット・デメリット)

授業方法の多様化の可能性, 教員養成課程の見直しの必要性